

## 7 番（小川義昭君）

白政会、小川義昭です。

通告に従いまして質問をいたします。

今 12 月会議は、私ども議員にとって任期最後の会議となります。奇遇にも、私は、今 12 月会議においても、前回の 8 月会議に引き続き最後の質問者となりました。

このたびの会議は、私ども議員にとりましては、4 年間のみずからのありようを総括すべき機会とも言っているでしょう。個々の議員がこの 4 年を振り返り、有権者からの負託に対して真摯に向き合ってきたのか、あるいは、市執行部とも緊張感を持って向き合い、市政の発展・向上に何を果たし得たのか、そうした自戒を込めて、私はこの 12 月会議に臨もうと考えております。

まして、この大きな節目に再び大トリとなる一般質問者として登壇する立場とめぐり合い、改めて気持ちを引き締め、何点かの課題について問いただしてまいりたいと思います。市長初め、執行部の皆さんにおかれましても、いつも以上に真摯に御答弁をされますよう切にお願いいたしまして、質問に入ります。

まず、毎年のように全国各地で発生する自然災害から感じることに、最初に 2 点質問いたします。

1 番目の質問は、自然災害における防災意識及び防災行動の徹底についてであります。

去る 9 月 8 日に本市を襲った集中豪雨に対して、県と金沢地方気象台が共同で白峰地区周辺に土砂災害警戒情報を発表し、市は、速やかに市ノ瀬地区に避難勧告及び避難指示を発令されていますが、これは実に適切な対応であったと、関係機関より伺っているところであります。

市と県が共同で、地区の防災意識向上プログラムとして土砂災害に関する学習会や避難訓練などを開催されていることに関しても、私は、常々大変意義深いことと評価しております。

しかしながら、甚大な被害をもたらしたことしの台風 10 号による東北地方などの被害状況に触れるたび、いつも悲惨な思いにかられ、行政がもう一歩前向きな姿勢を鮮明にし、保育施設や介護施設などに直接出向いて、それぞれの施設の指導者を含む職員や従業員に対して、さらなる防災意識や防災行動の徹底が必要ではなかったのかと痛感しています。いまや災害はゲリラのように襲い来るものであり、私どもにとっても、決して他人事とは申せません。

そこで、本市における防災意識の植えつけ、防災行動の徹底的な指導がどういった現状にあるかを問いかけ、今後の対応策についてお伺いいたします。